

の意中と同一徹に出てざるを得ない、天
 溪先生しきりに曰く「現下青年男女に向
 つて如何にして小説戯曲に接すべきかを
 教へよ云々など、泡沫を飛ばして居らる
 が、現今の小説戯曲には修養に資すべ
 き價值ある者、實に曉天の星の如しだ、
 全く徒らに皮想の觀を養ふか、然らずん
 ば神經病の妙藥に値するのみ、之れは確
 かに現代文藝界の一大缺陷であらう、當
 代文藝家諸氏宜しく奮起すべきである、
 奮起して以て當代文藝界の弊風を一掃す
 べきだ、

○ 備中 小林 融月

○冗漫と云ふ事は、今の文壇の弊なるが、
 之れ漢學の素養の足らざるの致す所也、
 是れを新聞雜誌の文に見るも洋文脈なる
 が十中の八九也、故に多く冗長に失し時
 に意味の明瞭ならぬ事あり、聞く近頃一
 部人士の間に漢字廢止の説を唱ふるもの
 ありと惑へるの甚しき也、現今筆執る人
 の中にも漢學の素養深き人程其文章簡
 明也、されば日本の文章を作らむには充
 分漢學の素養あるを要す、然るに近來の
 青年、漢學は舊學なりと捨てて顧みず
 悲哉

○大町桂月子の文章を讀んで感歎せざる人
 は未だ讀者眼の低き也、予以爲、今の世
 の文士の中にも單に文章としては恐く
 子の右に出づるものなからむと
 ○習字と云ふ事は、大切なる事なるに近
 頃大に衰へたり、書は以て名を記すに足
 ると云つてしまへば夫迄なれど、其筆蹟
 を見れば凡其人と爲りは知れる也、さる
 に世の文士とも云はるゝ人の文字にても
 春蚓秋蛇とうねり廻り多くは文字の體を
 すらなさぬありこは隣の支那や朝鮮に對
 しても耻かしき次第なれば世人一般に今
 少し練習したきもの也

◎次號締切

八月十五日

一、投稿は成るべく短文なるものを
 望む。餘り長文なるは掲載せず。
 一、課題なし。論題は何なりとも可
 なり。但し取捨の權は記者に在り
 とす。なほ今回掲載し得ざりし分
 は次號に送れり。

坪谷水哉子の
 歐米漫遊

本館編輯部長坪谷善四郎氏は、九
 月四日横濱解纜の信濃丸にて歐米視
 察の途に上らる。先づシヤトルに上
 陸して合衆國及び加奈陀の樞要地を
 巡視し、次て英吉利に渡り、歐大陸
 の各都會舊跡名山大川を徧く遊歴
 し、歸途は歐洲航路に據り、明年三
 月下旬を以つて歸朝せらるゝ豫定な
 り。
 本館の事業、日々に盛大となり、
 今や益す世界の大勢を悉知すべき必
 要あるに際して、坪谷氏進んで其の
 重任に當られしは吾れ等の深く感謝
 する所なり。氏獨得の觀察が、其の
 緻密なる筆に現れて、從來の漫遊者
 が未だ曾つて傳へざりし真相實況を
 本誌外本館發行の諸誌面に活如たら
 しむると近きに在り。讀者諸君刮目
 して待て。



崇拜孔子理由

文學博士 男爵 加藤 弘之

日本向受孔子恩澤。即如加納君所言。諒諸君亦
 早知之矣。攷之自千有餘年前之昔。受有孔子恩
 澤。日本有今日之進步亦基於此。日本元來雖有
 人道。自受孔子之教愈致完全也。不思夫武士道
 乎。近來各國稱之揚之。即此武士道、亦與孔教並
 進。二者相須以爲日本進步之因。此不可蔽之事
 實也。以故千有餘年間、孔子之教最有勢力。至德
 川幕府時代、殊極其盛。惟幕府以前、儒佛並行。

兩者雖盛。迄至戰國時代稍衰。至德川幕府。上流
 社會皆崇儒。佛則外形雖盛。精神較衰。上流社會
 教育。全歸儒道。即此情態續至維新之時也。
 顧日本維新。不但去其舊政。當舉社會所有事物
 一易。而歸於維新之一途也。世謂法國一千七百
 年來之革新亘古無比。我日本之維新迥出其上。
 見此時新者之所爲。千百年舊有事物一總改爲。
 必欲步武泰西。汲々圖新。竟忘先聖遺業。以致不
 復顧孔聖也。東京聖廟。倖而存焉。今日雖得致
 祭。各藩聖廟。至有見毀者。此亦怪不得之事也。
 蓋新之道。雖曰去舊而已。去舊之事不一總。欲
 其眞能一々革新。非因循姑息而可能。不但當舉
 所以不獲治效者悉去之。併當去其舊物。講求新
 法。踴躍振動。亦似有理乎。不見夫法國乎。一時
 欲廢耶蘇紀元正同其迹耶。雖然千有年來所受之
 孔子恩澤。實爲大焉。決不可諉者也。一日而忘其
 大恩。烏乎可乎。或謂世運之日趨於新。人事之日
 逐於新。而孔子之道莫非從新。則不足以用。亦知
 因孔子之教見世之進步。則孔子恩澤豈不大哉。
 既受此大恩。而爲圖革新一日而忘之、亦豈非輕

薄哉。至有毀其廟者。復何言。

維新當時一時趁新逐舊之極。竟至有毀廟者。夫如斯之爲。雖不以爲無裨於進步。亦非得宜之爲明矣。故分曉事理之人。漸覺其非。念孔子恩德難諉。竊議謝恩之事。或建堂紀念。或專祠致祭一事。予於十數年前。亦曾論之。與人相謀。奈此時氣運未到。不至實行。頃者時機已到。幕府以來中絕之釋奠。今茲有志相會舉行。乃爲慶幸。惟今日者會員不多。祭典亦未得謂十分。深冀從此以後。永行此祭。並盛其典。亦於謝恩之道。應盡之事也。又有一事欲言者。縱觀世界。有種々宗教。孔子之教與宗教。雖有相似之處。亦非宗教。孔教則別有主義與形式在焉。不得謂爲宗教。予思宗教又非無用之物。惟孔教實爲人生必要者。孔子真說常識之事教人。宗教者稍離常識。或說未來。或說天國。孔教則基由常識。未嘗說未來之事。即徵於未知生焉知死之語。足知孔子之宗旨。如彼天國極樂未來等事。決不說之。不語怪力亂神。說必今日處世之道。是爲人生最急最要之事。如彼說未來說天國說神說佛。姑以爲必要。究非現世之事。

故以孔教最爲必要。據徂徠之說。孔子之道。即安

天下之道。所謂道德者似歸帝王應學之道。予思既曰安天下之道。即現世天下之謂。而非謂天國極樂也。此意固皎然矣。雖然孔子之道當不止於安民之道。所謂忠信孝悌即一人一家之道亦自在其中無疑矣。孔子宗旨。既在祖述堯舜。憲章文武。據此立說。雖全歸安天下之道。堯舜文武亦以安民爲意。則不得不及於一人一家之爲也。以此理而言。孔子之道出於常識。即處現世之道。而一日不可已也。或談未來或說理想。並非常識之事。究屬宗教哲學。彼此相形。孰爲先。孰爲後。緩急之別。亦自分明矣。

孔子非如考理想之學者。又非談未來之宗教家。亦不似釋迦基督。正與希臘索克拉德斯。頗相類似。至其常識。更有可稱者。是以孔子之道。實於千有餘年間。大助日本進步。即孔子之教與日本武士道相須而使日本進步也。爲日本人者。念此致祭。亦理之當然也。

予說孔子如此。非謂孔子之道盡善盡美。又何能保涉萬世斷無誤。時勢變遷。非復昔比。孔子之道

不能行之於今日者頗多。亦行之而悞之者可有之。予雖信仰孔子之教。亦非盡信者。予信孔教之宗旨。即在孔教主常識之一點。要之居今日而言。孔教雖有要取捨之處。千有餘年間之大恩。須要感謝云々。

說孔子人格

文學博士 井上哲次郎

予今日說孔子人格。冒瀆清聽。惟孔子人格。偉大非常。可得自各方面觀察之。今日一席話。終不能由各方面備述。只得將其人格之最重要點。願陳蠡測。以請諸君批評。

竊思孔子人格。迨至今日。大有研究之值。然研究者甚少。誠爲遺憾。即如今日致祭。惹起世之學者注意。則研究孔子人格者。亦必從出。予實欣慰之至。而切望其出也。夫孔子支那人中偉人矣。自甲午一役。人皆蔑視支那。似有併孔子疎外之風。曷知乎孔子出自支那之偉人。而非支那民族專有之物。又非圈於支那一小區域內之人物。乃爲出自吾儕世界人類中之最靈人格。亦正如佛陀耶穌非

一民族之所可私。是所長教世界人類之一大人格也。如此偉人。決非一民族所可私。佛陀雖出自印度。非可限於印度民族範圍內之人格。廣爲世界教訓。亦誠人中傑出之一大人格矣。孔子亦如佛陀基督。即於吾儕人類歷史上。赫々揚其光輝之一大人格矣。如斯偉人。人間歷史。亦甚寥寥。屈指數來。僅有數人耳。即此數人中。獨孔子自有一種特色。如孔子爲青年模範。又爲教育家模範。而最爲穩健適切人格。孔子則與他偉人不同。自有普通學生勉學而上達之風。孔子非生於大族。又無得特別之助。試觀史記有「孔子貧且賤」之語。孔子亦自言「吾少也賤」。誠知以貧賤之身勉學而成一大人格也。別無奇蹟。普通學生切磋砥礪。而遂成非常之偉人也。即欲爲非常之偉人。亦非易々。孔子則循歷此段階而上來矣。察其迹則毫無爲異之點。好像今日之所謂苦學生。奮發力學而成切也。生於蕭條家庭。而且其父早歿。眞以零丁孤苦之身勉力而遂成非常之人物。自非黽勉非常。何能上達乎。尙有一事可稱者。孔子一體圓滿。毫無近危之事。此即與宗教家及其他偉人所不同